

ライフセービングスポーツにおける傷害の発生要因の検討

情報科学ゼミナール 1215185 弓削 匠

1. 研究動機・研究目的

ライフセービングという活動には、主に水辺の安全を守る監視活動とレスキュー技術を競技化したライフセービングスポーツの2種類がある。ライフセービングスポーツは第二のオリンピックと呼ばれるワールドゲームズの競技として世界的には認知度の高いスポーツである。本大学においても国内での大会で優秀な成績を収める一方で、練習中、大会中を問わず傷害を負ったという事例も少なくない。ライフセービングに関する先行研究には、監視活動における水辺の安全対策やライフセービング競技の生理学的特徴についての研究がなされてきた。しかしライフセービングスポーツで発生する傷害についての研究は未だなされておらず、リスクマネジメントの分野で先行研究がないのが現状である。そこでライフセービングスポーツにおける傷害の発生要因を調査することを目的とし研究することによって選手の傷害予防と大会運営側のリスク管理に繋がる可能性があると考えた。

2. 研究方法

本研究の対象者は、順天堂大学ライフセービング部に所属する部員26名(男性13名/女性13名、20.27歳)とした。海浜でのトレーニング後に半構造化面接法によるインタビュー調査を3名に行った。インタビューは1人当たり30分程度とし、インタビュー中の音声データは対象者の同意を得たうえでICレコーダーに録音した。次に「インタビュー中の発言をナラティブ化し、リスク要因を項目化した。アンケート調査ではインタビュー調査で得たリスク要因の項目を対象者に当てはまるか当てはまらないかで回答してもらいその結果をコレスポネンス分析してリスク要因の構造化を図った。

3. 主な結果と考察

インタビュー調査ではナラティブデータの総文字数は11022文字($M=3647$, $SD=915.4$)であり、リスク要因に相当するエピソードの総数は88($M=29.3/SD=2.1$)であった。さらに88のエピソードを25種類のリスク要因に分類した。次に抽出した25種類のリスク要因を選手、道具、コース、海象、気象の5つのカテゴリに分類した。選手、道具、コース、気象は先行研究のカテゴリと同様であり、海象は新たに命名したものである。アンケート調査によって得たデータをコレスポネンス分析によって構造化を検討した。その結果第一軸と第二軸に密集したリスク要因で2つのカテゴリが見られ、交点から離れた位置に1つのカテゴリを確認できた。交点付近右上にできたカテゴリは、自然環境によって引き起こされる障害に関するリスク要因であった。これは変化の予測が難しい海のコンディション

に対して選手が対応しきれないことによって傷害を負うものであるため、選手が自身の能力を正確に見極めることが必要不可欠である。また、大会運営者側も選手の安全を考えレースの延期、中止といった判断も選択の余地に入れる必要がある。交点付近左下のエリアは、レースに必要な経験値不足に関するリスク要因が集中した。レースに向けた調整不足やレース経験、トレーニング不足によって適切な判断や行動ができず結果的に傷害に繋がることを示唆している。最後に交点から離れ右上にできたエリアには、コース上回避困難なスタート時の危険性に関するリスク要因で構成された。日本国内で行われるライフセービングスポーツは認知度が低くまだ発展途上といえる。そのため選手が求める環境を運営側が認知していないことが多い。初心者から上級者まで参加する競技であるライフセービングスポーツにおいて相互理解を深め根本的な競技のルール見直しが今後求められる。これら3つのカテゴリは、本研究が構造化した5つのカテゴリとは異なるものであった。

4. 結論

本研究では、ライフセービングスポーツのひとつであるボードレースに焦点を当てて調査を行った。その結果、ボードレースには傷害を誘発する25種類のリスク要因が存在することが明らかとなった。特に顕著だったのは“選手”自身の経験や技術不足、“海象”という自然環境に対して対応できなかったことによる受傷である。これらは選手自身の日々のトレーニングによってリスクを減らせるものである。そのため、夏季期間中のトレーニングに留まらずオフシーズンの努力が成長と自然への適応を促し危機管理能力を高める。また、本研究の結果から経験値によって受傷頻度が減ると仮定するならば競技初心者に注目したリスク管理も必要となる。具体的にはルールの見直しや競技に使用される器材の安全性の向上を追求することによって傷害を未然に防ぐことができる。

5. 卒業論文の執筆を終えて

ライフセービング活動は日本ではまだ認知度が低くマイナースポーツとして認識されている。海や川といった豊かな水辺に囲まれていて幼少期からそういった自然と触れ合う機会は誰しも経験したことがあるに違いない。一方、水辺で起きる事故は後を絶たず、水辺で自身を守る術を持たない人が多いのが事実である。ライフセービング活動はそのような事故を無くしていこうという活動であり、ライフセービングスポーツは自身を守る能力や助けを求めている人に手を差し伸べられる可能性を高めていくスポーツである。「競技No.1はレスキューNo.1」と言われているようにライフセービングスポーツはライフセービング活動において大きな役割を担っている。本研究で明らかになったリスク要因は全体のほんの一部分に過ぎず、傷害の発生リスクの低率化にはより詳細なデータと研究が求められることとなる。卒論の執筆は終えたが、本研究が今後ライフセービングスポーツの傷害を誘発するリスク要因の研究として先駆けとなり、今後の発展に繋がることを切に願う。